

大正5年（1916）に、国会議事堂の設計者の一人である武田五一（1872～1938年）が設計。もともとは実業家の村井吉兵衛（1864～1926年）の邸宅であり、昭和3年（1928）秋、昭和天皇のご大典記念と比叡山開創1150年記念事業の一環としてこの地に移築された。京都の伝統的な書院造りを基調に、近代建築の粋をあつめて建てられた大正時代を代表する木造建築。当時の最高級の用材が用いられている。また建物内から琵琶湖を見下ろす景観も素晴らしい。

現在は国内外の貴賓を御迎えする迎賓館として用いられている。毎年四月四日から11日までの七日間、根本中堂で天皇陛下の御衣を奉戴して修される延暦寺御修法など、比叡山で開催される特別な式典に皇族が参列する際の宿舎としても使用されている。また、大講堂で行われる法華大会 広学堅義の参勤出仕の高僧の宿坊としても使用されている。